

2024年度日本地理教育学会 12月例会

参加費無料。非会員の方でも社会科教育、地理教育に関心のある方ならばどなたでも参加できます。申し込み：オンラインで参加希望の方は事前申し込みが必要です。対面参加の方の事前申し込みは必須ではありません。

申し込みフォーム：<https://forms.gle/6L4cWpjJkTV8kP8b7>

1 期日 2024年12月1日（日）13:00-16:00

2 会場 日本女子大学新泉山館 201・202

3 テーマ「地域のまちづくり・危機管理と地理教育」

4 主催 日本地理教育学会集会委員会 共催：日本女子大学人間社会学部教育学科

5 内容 地理学・地理教育の立場から世田谷区災害時『お家生活のヒント』の作成に協力した小田氏，実践に協力した京氏，世田谷区民向け防犯冊子「スクラム防犯」の作成に協力した清永氏より作成のプロセスと課題を踏まえてお話しいただく。後半は地理院地図の活用のワークショップをお願いした。

6 プログラム

司会進行 秋本弘章（独協大 集会委員長）・山本隆太（静岡大 集会副委員長）

会長挨拶 荒井正剛（東京学芸大 副会長）

趣旨説明 田部俊充（日本女子大 常任委員長・副会長）

発表1 小田隆史（東京大）：都市部の地域特性を踏まえた災害への備えと地理教育

発表2 京百合子（サレジオン国際学園世田谷）：地域の課題解決に参画する地理総合の実践ー世田谷区『災害時お家生活のヒント』の作成を事例にー

発表3 清永奈穂（日本女子大（非）・（株）ステップ総合研究所所長）：地域の安全は地域で守るー世田谷区民向け防犯冊子『スクラム防犯』の作成プロセス

休憩

国土地理院地理院地図ワークショップ

（国土交通省国土地理院応用地理部 木村幸一専門調査官）

総合討論

コメント

世田谷区危機管理部災害対策課

高橋裕（豊島岡女子学園）「ぼうさいこくたい 2024」に関する報告も含めて

趣旨説明 田部俊充（日本女子大）

高校必修科目「地理総合」の三つの大項目の一つの「C 持続可能な地域づくりと私たち」には（1）「自然環境と防災」が位置づけられている。持続可能な社会をつくるためのまちづくり・危機管理を考えていく上で、防災学習は大きな柱となっている。地域をとりまく様々な危機的事態を未然に防ぐまちづくり・危機管理が求められる中で、地理教育に求められているのはなにかを検討することは、本学会の重要課題であると考えている。

12月例会では、地理学・地理教育の立場から世田谷区災害時『お家生活のヒント』の作成に協力した小田氏・京氏，世田谷区民向け防犯冊子「スクラム防犯」の作成に協力した清永氏より作成のプロセスと課題を踏まえてお話しいただく。実際の危機に直面した際に適切な対応に資するすべての学校関係者が押さえておきたい地理的知識・技能を考えていきたい。

後半は国土地理院地理院地図の活用のワークショップをお願いした。まちづくり・危機管理で欠かせないのは、防災地理情報である地理院地図の活用によるリスクの把握である。小中高等学校で協力しながら、各学校段階に応じた、小中学校の「身近な地域の学習」、高等学校の「生活圏の学習」で必要な、土地の起伏や成り立ちを表現した地図、過去から現在までの空中写真、自然災害に関する地図・写真の活用について、ワークショップを通じて検討したい。

発表 1

小田隆史（東京大）：都市部の地域特性を踏まえた災害への備えと地理教育

都市部における災害リスクや復興過程をめぐっては、従来、マイノリティ貧困層を脆弱な存在と捉え、貧困が集中するインナーシティにおける高い災害リスクについて論じた研究や、非白人のエスニック・マイノリティのセグリゲーションと関連づけながら、ハザードスケープについて明らかにした研究が多い。他方、欧米の都市圏では、ジェントリフィケーションの進行によって、若年富裕層の集中や居住地域分化が置き、こうした都市の二極化や高級化が、都市圏の災害リスクを高めている現象がみられ、筆者はそれに着目して研究している。災害リスクの方程式、すなわち $R(\text{リスク}) = H(\text{ハザード}) \times E(\text{曝露}) \times V(\text{脆弱性})$ のなかの、 $V(\text{脆弱性})$ はすなわち、貧困層だけでなく、地域防災への参画に無関心な富裕層の集中や住民層の入れ替えも含めた多面的なリスク評価が必要である。実際、シリコンバレーで活況を呈する米国カリフォルニア州サンフランシスコ都市圏では、過度にジェントリフィケーションが進行した地区ばかりで構成される自治体においては公助の担い手である消防・警察等の公務員でさえ市内居住できない課題が浮き彫りになっている。「ヤッピー」と呼ばれる富裕若年層は、コミュニティの諸活動への参画意識が低く高級化した都市における共助の欠如も懸念される。こうした都市地域の特性を踏まえれば、公助の限界と共助の欠如が重要な要素となり、それに見合った災害への備えが求められる。本発表では、都市の災害リスクを捉え、備えを考える視点を提示し、地域特性を把握する地理的見方・考え方を身に付けさせる地理教育の可能性について議論するきっかけとしたい。また発表者は、かかる関心や考えのもとに、次の発表者・京氏とともに、世田谷区の在宅避難啓発冊子の制作に協力したので、その経験も交えて後ほどの登壇者らとの議論のきっかけとしたい。

発表 2

京百合子（サレジオン国際学園世田谷）：地域の課題解決に参画する地理総合の実践―世田谷区『災害時お家生活のヒント』の作成を事例に―

現行の学習指導要領では、前学習指導要領の課題が反映され、主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成や、課題を追究・解決する活動を取り入れた授業が目指されている。地域の課題解決に参画することは、生徒の学びへの意欲を高め、「自分にも課題を解決できる」という自己有用感を高める上でも効果的である。世田谷区が昨年実施した「区民意識調査」では、区の在宅避難（災害時に自宅が無事であれば自宅で避難生活を送ること）推奨に対する認知度が低いことが明らかになった。本校では約 10 年前から防災教育に取り組んでおり、災害対策課からの依頼で、在宅避難啓発冊子の制作に協力した。この活動は、主に昨年度の地理総合の授業の一環として行い、完成した冊子は区内全戸に配布された。これと並行して地理総合の授業では、都市部特有の災害リスクや、都市部に

求められる防災対策について、さまざまな単元と関連付けた学習を展開した。授業後のアンケートでは、生徒が自らの居住地の地理的特徴を理解し、より前向きな防災意識が形成されたこと、また家族と防災について話し合い、自宅の備えを見直すなど、実際の行動に結びついたことが確認できた。

さて、「地理総合の授業を通じて、生徒の防災意識を本当に高められているか」「教員自身は、防災の単元を教えることを楽しんでいるか」と問いかけられたら、どのように答える教員が多いであろうか。自然災害と防災は地理総合の重要な柱の一つであるが、「生徒自身の自分事にならず、指導が難しい」という課題を耳にすることも多い。本校では、「希望を持って最高の行動を考える」という意味を込めて、「^{ぼうさい}望最」という造語を生徒と共に考案し、その考えを基にした防災教育を行っている。この結果、生徒の（また教職員も）防災に対する意識は非常に前向きである。地理総合で防災を扱う際の「教員の心構え」と「小さな工夫」をいくつか紹介し、授業の効果をさらに高める方法を提案したい。

発表 3

清永奈穂（日本女子大学術研究員）：地域の安全は地域で守る-世田谷区民向け防犯冊子『スクラム防犯』の作成プロセス

2001年大阪教育大附属池田小学校児童教員殺傷事件、2002年全国犯罪発生ピーク、さらに同年世田谷区内河川での「幼稚園児水死事件」の発生。こうした状況を受け、世田谷区はあらためて子どもの安全強化に重点を置く積極的取り組みを始めた。筆者の所属する機関も参加することを求められた。そこで2003年作成されたのが区民の「犯罪からの安全能力」の向上を目的とした一般防犯広報啓発冊子「スクラム防犯」であり、「子どもが健やかに安全に育つことを目的とした」（保坂展人世田谷区長）冊子「初めてのいってきます！応援ブック」であった。「スクラム防犯」という名称を採用した理由は、当時なされていた犯罪者行動調査から明らかになった「我が家を中心とする半径20メートル」が犯罪者の最終意思決定距離であることを踏まえ、個人の対応ではなく「スクラム＝近隣との共助の結びつき＝最小町内単位のコミュニティ（Community 原文意：共に＋（住み続けるため）＋私になさねばならないこと＝義務）」の確立無しに、持続的な安全安心世田谷づくりは達成しえないという想いがあったことによる。その後「スクラム防犯」は2022年、より安全安心が持続強化するよう区民の生活中心に大幅に編集しなおされた。その改編と同時に、町内の人間関係の親密性がさらに増し、少子高齢化の進行にあっても、そこが「都市型故郷＝いつでも帰りたい安心して定住したいマチ」と思えるような基礎的意識形成を目的とする冊子「瞬間ボランティア」を新たに作成し、区民が主体となった自然な地域安全活動が高まることが目指された。ここでいう瞬間ボランティアとは、環節化し絆が切れがちな都市空間にあって、瞬間的に目にした「困った人」にボランティア精神で「とっさに出す手、目、声」＝ちょっとした余計な温かいお節介を「町内」を基礎的単位にしながら実行しようという標語である。実際、世田谷区ではこの標語の下に「誰でも身近なボランティア」を目指した人づくり学習の場＝講演等を進めている。こうした瞬間ボランティア活動の問題をあげるとすれば「世田谷区は広い」ということ、まだ子どもや保護者に広がっていないことである。これに関しては今秋実践する学校現場での活動等報告する。

2024年度日本地理教育学会12月例会プログラム

- 1 期日 2024年12月1日（日）13:00-16:00
 - 2 会場 日本女子大学新泉山館 201・202
 - 3 テーマ 「地域のまちづくり・危機管理と地理教育」
 - 4 主催 日本地理教育学会集会委員会 共催：日本女子大学人間社会学部教育学科
- 13:00 司会進行 秋本弘章（独協大 集会委員長）・山本隆太（静岡大 集会副委員長）
- 13:05 会長挨拶 荒井正剛（東京学芸大 副会長）
- 13:10 趣旨説明 田部俊充（日本女子大 常任委員長・副会長）
- 13:20 発表1 小田隆史（東京大）：都市部の地域特性を踏まえた災害への備えと地理教育
- 13:40 発表2 京百合子（サレジアン国際学園世田谷）：地域の課題解決に参画する地理総合の実践―世田谷区『災害時お家生活のヒント』の作成を事例に―
- 14:00 発表3 清永奈穂（日本女子大（非）・（株）ステップ総合研究所所長）：地域の安全は地域で守る―世田谷区民向け防犯冊子『スクラム防犯』の作成プロセス
- 14:20 休憩
- 14:30 国土地理院地理院地図ワークショップ（国土交通省国土地理院応用地理部 木村幸一専門調査官）
- 15:10 総合討論
- 15:30-15:50 コメント
- 世田谷区危機管理部災害対策課
 - 高橋裕（豊島岡女子学園）「ぼうさいこくたい 2024」に関する報告も含めて
- 15:50-16:00 おわりに